

3 イチジクの有望品種「ザ・キング」の特性と栽培方法

ねらいと成果

本県で栽培されているイチジク品種は、8～10月収穫（露地）の「柵井ドーフィン」に限られており、多様性に乏しい。そこで当センターでは、結果習性が異なるため露地でも7月に収穫の可能な品種群「夏果専用種」に着目し、品種選定と栽培法について検討した。その結果、「ザ・キング」が栽培容易で品質も優れることが明らかになった。また、慣行の一文字整枝をベースにしたせん定法が可能で、10a 当たり約1.4t 程度の収量を上げることができた。

内容

(1) 「ザ・キング」の果実特性

イチジクの夏果専用種には他に「サンペドロ・ホワイト」、「ビオレ・ドーフィン」があるが、ともに着果数が極めて少ないうえ、生理落果も多く栽培が不安定である。一方、「ザ・キング」は枝当たりの着果数が多く、生理落果も少ない。果皮は赤く着色しないが、美しい黄緑色である（表1）。果実は「柵井ドーフィン」より小さいが糖度が高く、食味は良い（表2）。また、梅雨期に成熟するにもかかわらず、裂果が少なく日持ちも良い。

表1 イチジク夏果専用品種の果実特性(H11、開心形整枝)

品種名	果皮色	果実重 (g)	糖度 (Brix)	着果数 (個/枝)	生理落 果率(%)	収穫期 (月/日)
ザ・キング	黄緑色	49.3	17.3	18.3	15.5	6/26～7/23
ビオレ・ドーフィン	暗赤紫色	68.9	16.5	4.2	76.0	7/7～7/15
サンペドロ・ホワイト	黄緑色	40.0	14.7	8.1	98.0	7/7～7/23

(ザ・キングは7年生、その他の品種は14年生)

表2 整枝法を異にする「ザ・キング」の果実特性 (H12)

整枝法	品種名	果実重 (g)	糖度 (Brix)	換算収量 (t/10a)	収穫期 (月/日)
一文字	ザ・キング	51.9	17.5	1.42	7/6～7/26
開心形	ザ・キング	51.3	17.1	0.38	7/8～7/24
一文字	柵井ドーフィン	90.9	16.0	2.76	8/14～11/7

(各供試樹とも4年生)

(2) 「ザ・キング」の整枝せん定

「ザ・キング」の新梢は「柵井ドーフィン」より密に配置し、うち半数程度の枝を結果枝とする。他の枝は秋果採りの「柵井ドーフィン」同様短く切り、次年の結果枝育成のための予備枝とする（図2）。

イチジクの夏果は、当年に伸びた枝の先端部数節にのみ着生し、越冬して次年の夏に成熟するが、「ザ・キング」は枝の先端からかなり基部の節まで着果するため、次年度の着果量が確保しやすい。ただし、枝により越冬幼果の数はばらつきがあるので、予備枝からは結果枝候補を数本出させる。

このせん定法の10a あたり換算収量は約1.4t となり、開心形整枝よりかなり多かった（表2）。「柵井ドーフィン」との比較では1/2程度になるが、腐敗果などの商品ロス「柵井ドーフィン」より少ない。

普及上の注意事項

- ① 着色しないので、収穫時期は触感で判断する。
- ② 収穫が短期間に集中するため、大面積向きではない。「柵井ドーフィン」の補助品種として、労力分散を目的に導入する。

真野 隆司（中央農技・園芸部）

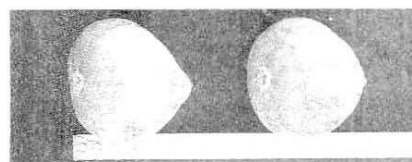


図1 「ザ・キング」果実

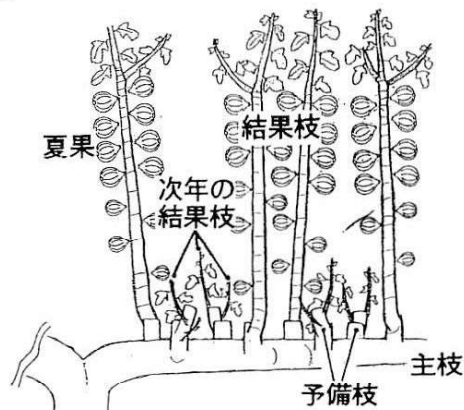


図2 「ザ・キング」着果期の樹の状態（模式図）